



TOP NEWS

飛騨高山の大自然を売り込み 中部観光セミナー、来訪者増狙う

岐阜県と愛知県への来訪者の増加を狙った観光セミナーが24日、マニラ市内のホテルで開催された。セミナーには、日本側から自治体や飲食、旅館・宿泊業など7団体が参加。飛騨高山の大自然など中部地方の魅力をフィリピンの旅行関係者にアピールした。現地の旅行代理店、学校関係者、航空会社など14団体は、雪景色や日本古来の町並みに関心を示していた。



飛騨高山の魅力を伝える高山市役所の担当者=24日、マニラ市 (NNA撮影)

セミナーは、中部地方の観光関連業者団体で構成する「おもてなし中部誘客促進協議会」(名古屋市)が主催し

た。渡辺民夫事務局長は、NNAの取材に対し、「これから中間層が増加すると見込まれるフィリピンでは、訪日旅行者の増加も期待できる」とコメント。桜や雪景色など四季が濃密に感じられる土地柄をアピールしたいと強調した。

渡辺事務局長によると、フィリピンでのセミナーの開催は初めて。これまでにタイ、マレーシア、シンガポール、中国、台湾、香港、韓国で同様のイベントを開いており、新たな市場を開拓するため、今回の開催に至ったとしている。中部地方を訪れた経験のあるフィリピンの旅行関係者からの評判が良かったことも背景にあるという。

セミナーでは、高山市役所海外戦略室の田中明担当部長が、標高2,156メートル地点にある「新穂高ロープウェイ」の山頂駅から見る雪景色、西穂高岳や槍ヶ岳などの北アルプスの景観は、「一見の価値がある」と述べ、雄大な自然が残る飛騨高山の魅力のアピールした。

[2]The Daily NNA フィリピン版【Philippines Edition】 第04214号

2013年(平成25年)1月28日(月)

また、世界遺産に登録されている白川郷の合掌造り家屋など日本の伝統文化が色濃く残る古い町並みや飛騨牛、朴葉(ほおば)みそ焼きなどのご当地食材もアピール。「中部地方を旅行する際は、ぜひ日本文化と自然が調和する高山を訪れて」と参加者に訴えた。

愛知県産業労働部観光コンベンション課の唐松徹主査は、愛知県は交流目的の学生の受け入れに力を入れていると強調。東京や大阪など他の観光地にもアクセスしやすい立地の良さも挙げ、地域一体となって中部地方を盛り上げたいと述べた。

雪の人気は不動、古い町並みも好印象

セミナー後には、商談を兼ねた食事会も催され、フィリピンの関係者からは、「雪景色と桜が同時に見られるのはうれしい」との声が聞かれた。交流目的で仙台や函館などに20人ほどの学生を送り出しているマニラ首都圏の大学関係者は、飛騨高山の大自然と古い町並みに興

味津々。「新たな派遣先として考えたい」と述べるなど、高い関心を示していた。

旅館を運営している日本側の参加者は、中部地方を知ってもらうことが第一だったとした上で、特に学校関係者からの反応が良かったと話し、訪問客の増加につながることに期待を示した。担当者によると、畳部屋の一部に掘りごたつを導入するなど外国人旅行者の受け入れ準備を進めているという。

日本政府観光局(JNTO)がまとめたところによると、昨年1～9月に日本を訪れたフィリピン人(暫定数)は6万2,665人。前年同期比で37%、東日本大震災前の2010年同期比で7%増加した。

中部国際空港(セントレア)とマニラのニノイ・アキノ国際空港(NAIA)を結ぶ直行便は現在、フィリピン航空(PAL)が毎日1便、米デルタ航空が週5便を運航している。デルタ航空は今年3月5日から週6便に増便し、同5月から毎日1便を運航すると発表。利用者数の増加を見込んでいる。